

会議等名称	開催日時	令和5年(2023年)11月24日(木)
令和4年度 第1回箕面市保健医療福祉総合審議会		14時から16時まで
	開催場所	箕面市立総合保健福祉センター 2階 大会議室
出席者	出席委員:明石会長、中副会長、徳岡委員、林委員、西野委員、 石田委員、太田委員、安東委員、安達委員 以上9名	
	欠席委員:内藤委員、松端委員、斉藤委員、石井委員、 村松委員、奥田委員、高林委員、岡委員 以上 8名	
事務局	【健康福祉部】 北村部長、水谷副部長、長谷川担当副部長 (健康福祉政策室) 村中室長、水原参事、尾崎、 (地域保健室) 中出室長、中島参事 (障害福祉室) 溝越室長、永井担当室長、池田室長補佐、清水室長補佐 (高齢福祉室) 山本室長、辻室長補佐、池本室長補佐、酒井参事 (地域包括ケア室) 中村室長、中野参事 (広域福祉課) 三浦担当室長、袴田参事、山本 【市民部】 (介護・医療・年金室) 川口室長 以上22名	
傍聴者	0名	
<資料> (☆は当日配付資料)		
【案件1】 箕面市障害福祉計画・箕面市障害児福祉計画について(障害福祉室)		
資料1-1	第6期箕面市障害福祉計画・第2期箕面市障害児福祉計画の実績について	
資料1-2	第6期箕面市障害福祉計画・第2期箕面市障害児福祉計画の各行動目標における実施状況について	
資料1-3	第4次箕面市障害者市民の長期計画(みのお‘N‘プラン)策定にかかるアンケート調査の実施について	
【案件2】 箕面市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画について (高齢福祉室、地域包括ケア室、介護・医療・年金室、広域福祉課、地域保健室)		
資料2-1	第8期計画の実施報告(令和3年度分)自己評価	
資料2-2	令和3年度の実績報告について	
資料2-3	令和3年度顔の見える総合相談・支援モデル事業の実績報告について	
資料2-4	令和3年度高齢者基本健康調査の結果報告について	
資料2-5	高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施について	
資料2-6	第9期計画策定のためのアンケート調査について	
資料2-7	保険者機能強化推進交付金・介護保険保険者努力支援交付金の概要について	
資料2-8	令和4年度保険者機能強化推進交付金・介護保険保険者努力支援交付金の結果報告について	
【案件3】 箕面市地域福祉計画について(健康福祉政策室)		
資料3-1	箕面市地域福祉推進会議について	
【案件4】 その他		

〈会議録〉

【はじめに】

- ◇ 会長あいさつ
- ◇ 出席状況確認(過半数の委員が出席のため会議成立)
- ◇ 配布資料確認

【案件1】箕面市障害福祉計画・箕面市障害児福祉計画について

●事務局からの説明

(障害福祉室 資料1-1～資料1-3 について説明)

●意見等

(安東委員)

箕面市障害者市民施策推進協議会の座長を務めさせていただいておりますが、市の職員には、定例的に協議会の会議を開催していただき、非常に丁寧にご説明いただいております。また意見もしっかり聞いていただいております深く御礼申し上げます。

1点欲を言えば、相談支援事業所で、箕面市から委託相談ということで受けていますが、障害のあるかたが、自立して生活を営んでいただけるようにという目的のもとで自立支援協議会という会議を、これも年3回程度行っているのですが、その自立支援協議会でも、今配って頂いた資料1-2とかをもう少し検証する場はあっていいのかなと思います。

障害のある方がたの、これからの生活の事も考えてご意見を聞いていただければと思っています。聞いていただいているのかもしれないんですが、なかなか時間が限られていて十分に協議する場がないのが現状ですので、そういったことを少し要望させていただきます。

(明石会長)

市の取り組みについてご評価いただきましたけれども、まだまだ課題があるので、障害者市民施策推進協議会や自立支援協議会でも、もう少し検討していきたいなというご意見でございました。ありがとうございました。

(徳岡委員)

資料1-2 3頁で、障害者が情報入手しやすいホームページの作成というのがありますが、実は今、Web3.0とかいう時代になってきてホームページというのは、Web1.0です。Web2.0になると、例えばアプリとかを使って、もっと双方向に使えるようになるんです。

なので、アプリのようなものを作った方がいいんじゃないかなと思うんですね。箕面市の障害者のためのアプリを作ってスマホに入れてもらえば、情報がすぐ見られますよね。そういった運用がいいんじゃないかと思います。

(明石会長)

最新のアプリが使えるようにしてはどうかというご提案ですけれども、これは健康福祉部だけでなく、市全体としての取り組みも必要になってくるんじゃないかな。

(事務局)

確認はできないところではありますが、ご意見頂いたアプリの活用については可能かどうかも含めて検討させていただきたいと思います。

(石田委員)

私は、今回の障害施策を見ても、この審議会が非常に軽視されていると思っています。

数字がずらっと並んでるだけで、何を審議して欲しいのか分からないです。この審議会の場では、もっと行政の意向が委員に伝わって、細かいことでもいいから何でも言ってくださいという運用であるべきだと思っています。例えば、年度ごとの計画値と実績値がこうですよと言われても、私たち委員はそんな細かいことまでは言えません。そんなことは審議会に求められていることではないと思っているんですね。

ですから、明石委員長はきっといろんなところの審議会とかをご存知だと思いますので、やはり箕面市の審議会で諮っている内容とかで、ちょっとこの辺は足りないよっていうような点は、もっとしっかり指導してもらってもいいんじゃないかなと思うんです。

それと、もう一つは出席の委員が少ないんです。もちろん会議は成立してますけど、なぜ少ないのか、やっぱり主催者はしっかり考えないと駄目だと思います。出席委員が少なかったら少ないで、意見を言う人も少ないしそれでいいかと、いうふうな気持ちではないとは思いますが、私には熱意が伝わってこない。

ということで、審議会は何のためにするのかということ、私は若い職員や、現場でやっている職員たちに対して、色々なところの審議会の運営を勉強しながら学んで欲しいです。

議会で答弁するときに「審議会に通ってますから」って言うために、審議会はあるんじゃないんです。やっぱり皆さんと一緒にこの地域の福祉をどのように進めるかを、第三者が見ても、ちゃんと議論されているなどと思ってもらえるように、この審議会をやらなければいけないんであって、単なる数字の情報共有ではないと思います。細かい数字を言われても、私は変えられません。わかりせんから。ですから、もう少し審議会っていうものをきちっととらえ直して欲しいです。

またNプランについてですが、アンケートをしようとしていますね。それはそれでいいですが、アンケートの目的がわからないんです。『障害者プランをこういうふうに考えていますが、については、議論をしていくために、やっぱり当事者のかたがどんな思いを持っていらっしゃるかを知りたいと思います。』という目的を明確にしてアンケートをしないと、アンケート項目はこれでどうですかって委員に言われても、どういうふうに活用されるのかがわからないので、私はアンケート項目は、事務局でしっかり考えてくださいと思っています。

そして、そのアンケート結果をどのように活用しようとしているのかが分からないです。まさかアンケートをして、すぐに作成スケジュールに入りますなんてことにはならないでしょうね。なぜこんなに、しっかり言っとかな駄目だと私は思ってるかっていうと、第2期地域福祉計画がありましたよね。あれは策定まで2年かかってるんですが、やっぱり不評なんですね。なぜかという、第1期の計画ですが、これは10年計画でしたが、これが大変よくできてると私は思っています。だから、行政の言い分としては、第1期計画があるので、10年経ったからといって、大きく変わるものではないので、今回はそれを補充するというような形で、次期計画を作りますとおっしゃったんですね。

第1期計画に書いてあった精神は、やっぱりしっかり踏まえないと駄目だと思います。だから、私は今、第2期計画を読むときは第1期計画と必ずセットにしています。『このところがやっぱり非常に重要』というがあるので、皆さんも第1期の計画をしっかりもう1回見直して欲しいと思います。

そして、その第1期計画はものすごい労力が掛かって作られたんです。第1期の計画の作り方はご存知ですか？いろんな部会を開いて、そこで何度も議論して、積み上げがものがこの第1期

計画なんですね。この計画が10年間お蔵に入ってたのは箕面市にとって不幸なことです。それは今更しようがないのでそれはそれでいいですが、必ずもう一度皆さんは、市役所の人なんだから読んで欲しいと私は思っています。

最後にしますが、Nプランを作る時に、地域福祉計画であったような不十分な議論で作るのではなく、地域福祉計画の二の舞にならないことだけは、肝に銘じておいていただきたいと思っています。作っただけというような計画だったら時間とエネルギーがもったいないですから、そうはならないようお願いしたい。

最後どう思っているのか行政に聞きたいことがあります。

この間、グループホームの反対運動がたくさん起こっていることと、それから文化芸能劇場についてですが、あそこの階段について褒めた市民は1人もいません。そして今、使えないようにロープを張ってあります。私みたいな年齢の人は、手すりを持って上がらないと危ないぐらいです。なぜあんな建物が箕面市でできてしまったのか聞きたいです。

(明石会長)

ご意見いただきましてありがとうございます。

1つ目は審議会のあり方について、2つ目は、Nプランの策定手順について、それから3つ目は、障害福祉に関する計画を策定しているにも関わらず、最近建てられた文化芸能劇場に階段が多い件について、以上3点ですが事務局いかがでしょうか。

(事務局)

ありがとうございます。

審議会の運営については、この間もいろいろお声をいただいていると思うんですけども、各福祉計画の進捗についてはきっちりこの場で報告するということになっていますので、報告をさせていただいた上で、ご意見を頂戴したいと思っています。

ただ、計画のボリュームが多過ぎて、ご意見をいただいたり、様々な議論をする時間がなかなか取れないというのは事務局もこの間感じているところです。このボリュームを、少なくするというのは難しい状況でございますが、できるだけ議論の時間を今後取らせていただくような形にしていきたいと思っています。

それから、障害者のアンケートも含めて計画の策定手順ですが、この審議会でご意見をいただくとともに、先ほどお話がありました障害者市民施策推進協議会でも、事前にきっちり当事者の方々のご意見も丁寧に聞き取りを行いながら議論をしていただいておりますので、計画策定の際に頂いた意見を反映させたいと思っています。

地域福祉計画は、石田委員が言われるようにこの間色々ありました。第1期計画の考え方につきましては、当然第2期計画も引き継いでいますので、別々のものという認識は全くございません。第1期の中でも、実行できていないところもあると思いますので、そこは第2期計画でもきっちり引き継いで、第1期計画の分も含めて、推進をしていきたいと思っています。

それから、この間グループホームの反対運動がありましたが、住民説明会を開催し、地元の方々がたと、市の考えや今後のグループホームのあり方などきっちり説明をさせていただきました。

最後に文化芸能劇場の階段のことについては、なぜこんな階段になったのかということについては、ロープが張られているということも、私も今初めて聞きましたので関係部局に確認させていただきたいと思っています。

(石田委員)

文化芸能劇場については健康福祉部が設計したとは全く思っていない。建設の担当職員の頭にはいわゆるバリアフリー、障害者の問題、高齢者の問題の意識がなかったということなんです。

私はここで発言させてもらったのは、その起点として申し出をする相手は、私たち委員は健康福祉部しかないと思っているわけです。もちろん、私は社会福祉協議会ですから、いろんな部署に直接言っていきますが、健康福祉部の皆さんは、その先頭に立って起点として、しっかり庁内に問題提起をしていかないといけないと思うんです。障害福祉のことを一生懸命やっている職員がいる一方で、あんなバリアフリーを疎かにした建物をつくられてしまっては恥ずかしいですよ。ぜひ、元気を出しておかしいことはおかしいと庁内にも広げてもらって欲しいと思います。

(事務局)

当然、文化芸能劇場を建てる時には、障害者の団体の方も含めまして、当事者のご意見も踏まえた上で、作られていると思いますが、実際、頂いたご意見のとおりで作られた上でこういうことになっているのか、それとも反映されていなかった部分なのか。そこは1回聞いてみないとわかりませんのでまた確認をさせていただきます。

(明石会長)

ありがとうございました。

それでは時間の関係もございますので、先に進めさせていただきたいと思います。

【案件2】箕面市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画について

●事務局からの説明

(高齢福祉室、地域包括ケア室、介護・医療・年金室、広域福祉課、地域保健室

資料2-1～資料2-8)について説明)

●意見等

(安東委員)

資料2-5の地域保健室の資料が非常によくまとまっていて、とても感心しました。校区ごとの課題を健康という切り口で見られていて感心しました。無作為抽出で3000人ですので、データが限られてしまうのはやむを得ないかと思いますが、回収率も非常に高いですし、このデータは非常に有効だなと思って感心しました。地域ごとの課題に対して、ささえあいステーションと、地域包括支援センターや健康福祉部の担当室の職員がしっかりタッグを組んで解決を目指して取り組んでいていただきたいなと思います。高齢者に限らず小さい子どもも巻き込んだ形で、是非とも発展させていただきたいと思っています。

(事務局)

なかなかそのまとめたものをどういうふう施策として展開するかっていうのは大きな課題になっておりますので、できることから進めていきたいと思っています。ありがとうございました。

(徳岡委員)

口腔機能と心の元気度と認知機能は関連しているという話があったんですが、口腔機能というのは実は腸管なんですね。例えば大学病院でも、口腔外科は消化器外科に入ったりするんで

す。だから、オーラルフレイルは内臓を表しているんですね。例えば顔の表情でも、何で表情が出るかという、実はこの顔の表情筋は全部、腸の筋肉なんです。だからオーラルフレイルは内臓の一つの指標になっていて、それが心とか、認知とかその辺と関連していくということを、言っておきたいんです。

(明石会長)

ありがとうございます。事務局も、医師や、歯科医、薬剤師など、医療関係の先生方に色々ご助言を頂いて、どのようにデータを分析して、施策に結びつけていくのか検討を進めていただきたいと思います。

(安達委員)

ご提案になるのですが、[資料2-1](#)で、重点施策として介護サービスの質の確保が記載されていますが、介護サービス事業者に対して、例えば、大阪府のように、集団指導みたいな形で情報提供されるなど、今コロナ禍で各施設に行きにくい状況であろうかと思っておりますので、個別ではなくて、集団で実施されては如何かなというふうに思います。ご提案です。

(事務局)

ご提案ありがとうございます。

高齢者事業所に関しましては、1年に1回、集団指導とともに、運営指導を6年に1回の更新の間に必ず1度事業所を訪問し、監査的に運営の指導を行っている現状でございます。

運営指導に関しても、集団でできればいいとの意見もありましたが、集団指導は、年1回、全事業所を対象に、コロナ禍のためWebで研修を行わせていただいております。

運営指導に関しましては、繰り返しにはなりますが、各事業者に、6年に1回の定期更新の期間内で必ず実施しておりますので、引き続き続けていきたいと思っております。

(石田委員)

1つは要望で、認知症の高齢者支援策についてですが、認知症っていうのは10年前と今では全然とらえ方が変わってきて、認知機能の低下っていう言葉を、使うところが多くなってきてるんですね。認知症というのは、ある断面をとって認知症だというのは非常に危険で、初期の段階もあるし、徘徊をしたりする人もいます。だけど認知症の人がみな徘徊をしているわけではないので、パンフレットやガイドブックを作ったりする際には、必ず当事者目線で作って欲しいです。

もう1つ、ささえあいステーションの実績報告のところでも数字がいろいろ出ましたが、完全に私と食い違っているなと思う点が「課題」なんです。「課題」でどこが食い違っているかっていうと、カフェを増やすとかささえあい推進会議を増やすとか、よりそい隊になってもらう事業所を増やすとか、そういうのは課題ではないんです。本当に相談の必要な人たちに出会っていくための「手段・方法」なんです。

だから、出会いの場を作って、顔の見える関係にない人と、いかに出会っていくか、出会いながら、そこで、出会った課題、例えば社会的な孤立であったり引きこもりであったり、認知症で悩んでいたり、生活困窮で悩んでいたり、そういった人たちの課題を解決するのが私たちの目的なんです。それが目的なので、ここの課題のとらえ方は、間違いがあるというふうに思っています。

(事務局)

ありがとうございます。まず1点目の認知症のパンフレット、認知症あんしんガイド等を当事者目線で作って欲しいという意見をいただきましたが、市では認知症支援に関わる医療や介護関係者、認知症家族会等に参加いただく認知症施策推進会議を開催しておりますので、今後、パン

フレットやガイドブックを改定する際には、その会議でご意見をいただきながら、見直していきたいと思っております。

顔の見える総合相談・支援モデル事業での課題のとらえ方が違うというご意見をいただきましたが、生活課題を抱えたまま孤立している人がいないまちづくりを目指し、このモデル事業を開始し、モデル事業を約3年半続け、今年からモデルの名称をとり、顔の見える総合相談・支援事業として本格的に進めておりますが、ご指摘いただいた今回の報告書では、十分にまとめきれていなかった点があるかと思っておりますので、その点は反省しつつ、社会福祉協議会ともいろいろ検討を重ねながら今後も事業を進めていきたいと思っておりますので宜しくお願いいたします。

(西野委員)

顔の見える総合相談・支援事業で、市内14校区すべてにおいて、ささえあいステーションを開設したということなのですが、私は民生委員・児童委員として止々呂美地区を担当しているのですけれど、とどろみふれあいルームで開設しているささえあいステーションに、私もどんなかたが相談にお見えになっているのかなと思って何回かのぞいたりするのですが、担当の方に誰か相談に来られましたかって伺っても、どなたもお越しになってないそうなんです。すごく高齢者地域ですので、悩みが無いはずがないんですよ。だからどんなふうにして、住民の声を吸い上げていくのかを、地区福社会とか、いろんな地域の団体とか、もっと、連携をとって、相談の内容をくみ上げて欲しいと思いました。

(明石会長)

ありがとうございます。事務局も懸命に事業を展開して、住民の方に周知を努めておられるんですけども、やはり開設されて間もないこともあったり、それからやっぱり相談に行く勇気というか、全く知らない人に相談しづらいかたが多いと思います。そういうかたに、いかに来てもらうかということが難しい点ですよ。事務局いかがでしょうか。

(事務局)

ご意見頂いたとおり実際にとどろみふれあいルーム(止々呂美校区のささえあいステーション)に来られる方は非常に少ない状況にあります。周知がなかなか十分でないこともあるかもしれませんが、やはり困っている方は自分から相談に行ける人ばかりではありませんので、相談を待つのではなく、地域に職員が出向いて、そこで色々な情報を集めてくる必要があると思います。あわせて、地域住民の方がご近所さんのお困りごと等に気づいたら、ささえあいステーションに繋いでもらうといった流れを作っていくのも、このささえあいステーションの役割だと思いますので、ささえあいステーションの周知とあわせて住民意識の醸成にも力を入れていきたいと思っております。

【案件3】箕面市地域福祉計画について

●事務局からの説明

(健康福祉政策室 資料3-1について説明)

●意見等

(明石会長)

市の計画と、社協の計画をすり合わせて相談体制をきちっと作っていくという試みですが、なかなか珍しい方法ですね。他の自治体は、大体連携するだけで終わってしまうところがあるんで

すが、箕面市のように具体的に連携の仕組みを作っているのは非常にすばらしい試みではないかなと思うんですが、これについて、石田委員は何かご意見ございますでしょうか。

(石田委員)

特にございません。ありがとうございます。

(明石会長)

他の委員の皆さんいかがでしょうか。

〈意見等なし〉

(明石会長)

本日の審議は以上です。会議の進行にご協力いただき誠にありがとうございました。

以上をもちまして、令和4年度第1回箕面市保健医療福祉総合審議会を閉会いたします。

以上